

A 障害者技能競技 アビリンピック

Abilympics
鹿児島障害者職業能力開発校
地下 優輝さん
第40回 全国アビリンピック木工部門金賞



知県で開催された、全国障害者技能競技大会(アビリンピック)木工部門で最高賞の金賞に輝き、併せて厚生労働大臣賞を受賞した地下さん。

のこぎり、かんなを使い、制限時間内にふた付き木箱を作り上げ、木工部品のカットやくぎ加工など正確な加工技術が評価されました。

15歳以上の全国から集まった参加者が、25競技で日頃の培った技術を競うこの大会。

練習の成果が評価された地下さんは、「練習を頑張った良かった。金賞が取れてうれしい。またチャレンジしたいです」と受賞の喜びを語りました。

鍛錬に裏打ちされた自信と
平常心で全国金賞受賞



▲真剣な表情で、さらなる技術取得を目指す地下さん

川 内北中陸上部に入部当初は、短距離を中心に競技に打ち込んでいましたが、指導者のアドバイスで長距離へ転向。

短距離走の経験を生かしたスビードを武器に高校1年の夏ごろから頭角を現し、昨年の10月の全国高等学校陸上競技大会では、3000m競技で3位入賞。県高校記録9分6秒台のタイムをたたき出すなど、全国に通用する力を付けてきました。

日頃から食事などにも気を配り、走りへのコンディショニング作りを心掛けています。

今後の目標は、陸上トラック3000mで8分台のタイムを出すこと。

「何事にも全力で、基本を大切に取り組んでいきます」と語る久保さん。

2月にあった県高等学校新人駅伝では1区を走り、2位に15秒差をつける好タイムで1位走破。チームも総合優勝し、次大会への勢いをつけました。

都大路の舞台で再びチームが全国優勝することを目標に、日々練習に励んでいます。

基本を大切に何事にも全力で
走ること真剣に向き合う



駅伝

Ekiden
神村学園高等部2年
久保 心優さん(川内北中学校出身)
女子第32回 全国高校駅伝 準優勝



▲全国優勝を目標に、日々鍛錬を続けている(写真は選抜女子駅伝北九州大会2020)

さまざまな分野で活躍する若者たち

- 【税理士試験 簿記論科目合格】
 - 川内商工高校3年 松田 大輝さん
- 【地方創生】
 - 九州経済産業局長賞
川内商工高校2年 小園 愛梨さん
 - コンテスト
下夷 璃歩さん
前原 未侑さん
- 【作文】
 - 第29回全国小学生作文コンクール「わたしたちのまちのおまわりさん」 優秀賞
隈之城小学校4年 池之野 煌悠さん
- 【陸上】
 - 第38回全九州高等学校新人陸上競技大会
男子100m 10秒75 1位
男子200m 21秒72 1位
川薩清修館高校2年 立岡 駿さん
 - 第38回全九州高等学校新人陸上競技大会
走り高跳び3位 1m62cm
甲南高校1年 広川 采矢子さん
(川内中央出身)
- 【バドミントン】
 - 九州小学生バドミントンフェスティバルinくるめ
4年生以下男子シングルス準優勝
平佐西小学校4年 石原 達希さん
(川内ジュニアバドミントンクラブ)
- 【ホッケー】
 - 令和2年度全九州高等学校選抜ホッケー大会
川薩清修館高校男子チーム 優勝
川薩清修館高校女子チーム 準優勝
- 【ボート】
 - 令和2年度全国高等学校選抜競漕大会九州地区予選
男子ダブルスカル2位
川内商工高校2年 時吉 拳至郎さん
島中 秀伍さん
- 【競泳】
 - 全国JOCジュニアオリンピック夏季水泳競技大会
男子200m バタフライ 2分1秒39 3位
鹿児島情報高校1年 新開 誠也さん
(川内南中学校出身)
 - 鹿児島県SC大会
女子200m 平泳ぎ 2分32秒31 1位(全国5位)
川内南中学校2年 有元 優菜さん

ボートのまち、薩摩川内市を
知ってもらえるように頑張りたい



▲メダルを胸に「今年の全日本選手権と大学選手権では優勝できるように頑張りたい」と抱負を語る城戸さん

R ボート

Rowing
日本大学ボート部1年
城戸 真優さん(川内商工高校出身)
第98回 全日本選手権
舵手なしクオドルプル 2位

城戸さんは、川内商工高校ボート部で腕を磨き、九州インターハイ優勝やインターハイでの準決勝進出、茨城国体出場などの実績をもって、ボート競技の名門である日本大学へ進学しました。その実績と実力を見込まれ、1年生ながら全日本選手権の選手に選ばれ、舵手なしクオドルプル競技に出場。クオドルプルとは4人を意味する言葉で、舵取り役のコックス(舵手)を置かず、4人の漕手が同じ動きでボートを漕ぎ、スピードを競うものが、舵手なしクオドルプルです。

城戸さんはボートの中央でボートのエンジンとも言われ、体力が必要とされる2番のポジションを担当。力強いローイングで見事チームを全国2位へと導きました。

ボートを通じて、薩摩川内市を知ってもらいたい。郷土を愛しながらさらなる高みを目指し、競技に打ち込んでいきます。

